



たった一人の3年 東風・山口主将

まじめ、ひたむき…

昨夏の4打席連続三振から1年。この夏も2打席を終え、山口航平(3)

年に安打はない。七回コールド成立まであと1死で3打席目が回った。「1点取らなければ負け。何としても出る」。追い込まれた4球目、芯を外れたが強引に振り切ると、詰まった当たりは左前へ落下した。桜庭裕也監督(37)は「野球の神様はまじめな山口を見捨てなかった」。最後に褒美の一打が生まれた。

野球を始めたのは1年の秋。素人同然だった。部員不足に頭を抱える桜庭監督に誘われ「小さいころプロ野球を見てから

つくば国際―東風 7回裏2死から東風・山口が左前打を放つ―土浦市営

努力が生んだ一打

白球の詩

興味があった」と、思い切って門をたたいた。キヤッチボールをすれば顔に当たり、トスバッテイングはかすりもない。それでも「途中で投げ出すのはいや」と前向きに練習を続けた。

入部時にいた同級生は5人。徐々に数が減っていく中でも、心は揺るがなかった。2年の秋にはただ1人残され、主将を任された。プレーで引張れない分「ひたむきに取り組み」。朝と放課後の練習は誰よりも先に来て、最後に帰る毎日。桜庭監督は「一人でグラウンド整備する姿を何度も見た」と言う。

今春、経験豊富な上

(今井俊太郎)

生8人が入部。力感差に悩んだが「頑張ってきた自分に誇りを持ってやるしかない」と自信を取り戻した。リーターシップを發揮してチームをまとめ、練習試合で大量失点は少なくなった。

迎えた夏の大会。中堅手として全力疾走し、二回には左への大きな当たりを補球した。ベンチからは誰よりも大声を挙げ、攻撃が終わると誰よりも早く守備位置についた。

最後までひたむきな姿を飾った。たった一人の3年生が夏を終えた。「野球をやって良かった」。それまでの笑顔を隠すようにタオルで目を押さえると、後輩たちは寂しそうに見詰めた。



つくば国際大東風(3年)

山口 航平 主将

7-0で迎えた七回裏2死。野中でバットを振りぬぎ、ライトにヒットを飛ばした。コールド負けのラストバッターになるピンチを、自身の公式戦初ヒットで次につないだ。

高校に入って野球を始めた。昨夏は4打席4三振。レフトフライも落球した。唯一の3年生として主将を務めるが、今春に野球経験のある1年生8人が入部し不安になっ

「思い」実った初安打



た。プレーで見本を示せ山本卓椰選手(1年)にま
ない主将の指示を聞か
ない1年生。「まとめる
は大変だ」と悩んだ。
「プレーで引く張れな
いなら、野球の姿勢で見
せればいい」。監督に励ま
され、毎日誰よりも早く
グラウンドにきて、ポー
ル磨きやグラウンド整備
をした。すると1年生も
ついてくるようになった。
この日の試合は、次の
打者も出塁し、最後は主
将に反発していた2番・
「思いは七回裏で実っ
た。試合後「野球をやっ
て良かった」とさわか
に語った。【佐久間一輝】

球児と「母」

下宿生に声援



土浦市板谷の酒井邦子さ
ん(70)は写真には、東風の
山本卓椰選手(1年)、東
野優志投手(同)を今春か
ら自宅に下宿させている。
鎌田市出身の2人の下宿
先を知人の桜庭裕也監督

(37)が探していたところ、
「息子も高校球児だった。
前途ある子どもを育ててみ
よう」と引き受けた。「素
直で明るく礼儀正しいと、
たくちゃん、ゆうちゃんと
親しみを込めて呼ぶ。
以前は調理の仕事に就い
ていた。カルシウムやたん
ぱく質など、栄養バランス
良く食べさせたいと、午後
10時頃に帰宅する2人に手
作りのご飯をふるまう。

この日は、五回に山本選
手が内野安打を放ち、東野
投手も中継ぎでマウンドに
立ち、見せ場を作った。「ド
キドキする。息子の応援に
行っていた時代に戻ったみ
たい」と雄姿に目を細めた。
(原田この実)